

【p56～p61】 日本を愛したヒコ —ジョセフ・ヒコ—

1 資料活用にあたって

- 長文のため事前に読ませておく。
- 使用する学年段階に応じて、幕末の時代について教師が簡単に説明する。
- 56ページ～57ページは、漂流したジョセフ・ヒコがアメリカ国籍を得て、九年ぶりに故国の土を踏むまでの経緯について教師が要点を説明し、58ページから発問構成する進め方もある。
- 内容項目C（17）における愛国心の扱いについては、郷土を愛する心が日本全体に開かれたものへと発展し、国を愛する心が児童の内面から自覚されることが大切である。したがって、アメリカ国民となって生きることを選んだヒコであったが、久しぶりに日本にもどり、ふるさととしての故国日本の現状と将来を案ずるようになったことをおさえることが大切である。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：ヒコ（子どもが「ヒコ」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：九年ぶりに見た日本の社会の様子
- 変化するところは：「きっとまた、ここにもどってくる…」

3 読み物資料の素材について

【参考文献等】

- ・ 『ジョセフ彦 海外新聞』早稲田大学図書館資料叢書 2 早稲田大学出版部
 - ・ 『人物草書 ジョセフ・ヒコ』吉川弘文館 近盛晴嘉
 - ・ 『絵ものがたり ジョセフ・ヒコと洋式帆船の男たち』播磨町ふるさとの先覚者顕彰会
- ジョセフ・ヒコの生い立ちと業績

- ・ 1837年 幼名を彦太郎といい、現加古郡播磨町に生まれた。
- ・ 1850年 13歳のとき、大阪から江戸に向かう途中に乗りかえた栄力丸が江戸からの帰途、遠州灘沖で遭難した。太平洋を漂流中、アメリカの商船に救助され渡米。税関長サンダースとの出会いにより、サンフランシスコで教育を受けることになった。また、アメリカ各地をまわる機会を得るとともにワシントンではピアース大統領と会見する。
- ・ 1854年 カトリックの洗礼を受け、「ジョセフ・ヒコ」と改名。その後アメリカに帰化した。アメリカの市民権を獲得した最初の日本人だった。
- ・ 1859年 アメリカ神奈川領事館通訳として帰国。日米修好条約の実施や幕末の遣米使節派遣など21歳のヒコは幕末外交の第一線で活躍した。
- ・ 1861年 三度アメリカに渡る。当時のアメリカは南北戦争の最中であつた。ヒコはリンカーン大統領と会見して、民主主義・民主政治を体得した。そして、新聞の威力を知った。
- ・ 1864年 「新聞誌」のちの「海外新聞」を発刊。「新聞の父」と呼ばれている。新聞は、新生の胎動を続ける日本に海外の情報や知識をもたらした。民間人による日本最初の新聞であり、現在発行している新聞の原型となった。その後、幕末から維新にかけての激動の日本で、活動を続けた。
- ・ 1897年 東京で生涯を閉じた。東京の外人墓地には「浄世夫彦之墓」と刻まれた墓碑が建っている。

4 展開の具体例

日本を愛したヒコ —ジョセフ・ヒコ—

- ・ **主 題 名** ・ 日本のために C (17)
- ・ **資料の概要** ・ 漂流後アメリカに渡ったヒコ（彦蔵）は、九年ぶりに故国の土を踏むが、世界に取り残されそうな開国後の日本社会を目の当たりにして、故国の行く末を憂う。アメリカに戻った後、新聞を読みふける人々を見たヒコは、日本を目覚めさせるために新聞発行を決意する。ようやく発行した新聞を読む人々を見て、ヒコの全身に熱い思いが込み上げる。
- ・ **ね ら い** ・ 日本を生まれ変わらせようと新聞発行をはじめたヒコを通して、わが国の発展に尽くした先人の努力を知り、国を愛する道徳的心情を育てる。
- ・ **展開の具体例**

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	新聞にはどんな利点がありますか。	資料の時代背景（開国後の混乱）を押さえ、主人公が故国の行く末を憂う状況をつかませる。
展 開	・資料の範読を聞きながら、黙読する。		
	・日本を再度訪れることを決意した主人公の気持ちを考える。	「きっとまた、ここにもどってくる……。」と言いながら、ヒコはどんなことを考えたのでしょうか。 ・このままでは日本は世界から取り残されてしまう。 ・この国をなんとかしなくてはならない。 ・きっとまた、ここに戻って、日本を何とかしたい。	久しぶりに見た日本の社会の様子がきっかけとなり、「この国を何とかしなければ」という意識が主人公に起こっていることをおさえる。
	・アメリカで新聞を読みふける人々の姿に見入る主人公の気持ちを考える。	アメリカで新聞を読みふける人々の姿に見入るヒコは、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・新聞があれば、誰もが世界中のことを知ることができるぞ。 ・新聞の力で日本を目覚めさせることができるぞ。 ・日本のために新聞を発行したい。	新聞を読みふける人々の姿がきっかけとなり、主人公の国を思う気持ちが高まっていることをおさえる。
	・新聞を読む人たちの姿を目にした主人公の気持ちを考える。	「海外新聞」を読む人たちの姿を見て、ヒコの全身にこみ上げてきた熱いものは何だったのでしょうか。 ・日本人も世界の出来事を知ることができるという感動 ・これで日本を目覚めさせることができるという安心感 ・きっと、日本は変わるにちがいないという自信	「故国の発展のために力をつくしたい」という心情が主人公を支えたことをおさえる。
終 末	・自分の考えを書く。	自分の考えを道徳ノートに書きましょう。	